ニュースリリース

学校法人
川崎学園

2018/6/6

報道関係 各位

【研究発表】

「マウスにも共感性?!」

～ マウスにも他者をいたわる能力が備わっている可能性を発見 ～

川崎医療福祉大学(臨床検査学科)・川崎医科大学(精神科学教室)・岡山大学の共同研究グループ

【概要】

川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科の上野浩司講師と川崎医科大学精神科学教室、岡山大学との共同研究グループは、マウスが共感様行動を示すことを発見しました。

共感する能力は高度な社会的動物である霊長類にしかないと考えられてきました。しかし近年の研究ではマウスより大型のげっ歯類であるラットでは共感様行動を起こすことが報告されており、注目を集めていましたが、実験で主に使用されるマウスでは確認されていませんでした。また、マウスではこのような高次な情動行動はないとされ、あまり調べられてきませんでした。

当研究グループは、マウスは健康な個体(マウス)よりも疼痛状態の個体のそばで長い時間過ごし、共感様行動を示すことを世界で初めて発見しました。この発見は共感の進化的側面やその脳内ネットワークの解明につながる可能性があります。

また、精神神経疾患で異常がみられるような高次な情動行動をマウスでも解析できるようになる可能性があり、原因が不明である多くの精神神経疾患のメカニズムの解明につながることが期待できます。

【論文情報等】

本研究論文は、米国の科学雑誌 Brain and Behavior に、平成 30 年 5 月 29 日付で掲載されました。 https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/brb3.986

論文名: Empathic Behavior According to the State of Others in Mice
著　者: Hiroshi Ueno, Shunsuke Suemitsu, Shinji Murakami, Naoya Kitamura, Kenta Wani, Motoi Okamoto, Yosuke Matsumoto, Shozo Aoki, Takeshi Ishihara

【ポイント】

・マウスは健康な個体よりも疼痛状態の個体のそばで長い時間過ごすことを実験的に示しました。
・マウスは会ったことのない個体でも同様の共感様行動を示しました

【今後の展開】

本研究結果は、共感性の欠如を症状として示す精神神経疾患のメカニズムの解明や、その治療方法の開発への応用が期待できます。

＜問合せ先＞ 広報について
川崎医療福祉大学 庶務課
副主任 穂崎紀宏(ほさき のりひろ)
Tel 086-462-1111(代)

＜問合せ先＞ 研究について
川崎医療福祉大学 臨床検査学科
講師 上野浩司(うえの ひろし)
Tel 086-462-1111(代)

発行：学校法人 川崎学園 大学事務局 企画部
広報連携室 Tel 086-462-1111 (代)